

福山市議会9月定例議会 西本章の一般質問を傍聴して 後援会会員 (H.O)
久しぶりの傍聴席だったが、西本議員の質問は緊迫した75分の質疑、応答だった。
いつものように、弱い立場の人たちに視点を置く“ぶれない質問”が続いた。

新型コロナウイルス対策では、従業員解雇の状況、生活保護に対する質問。熱中症対策では、学校での対策。「えほんの国」では幼い子どもの居場所、読書環境について。家庭の経済格差ではICT教育の課題について。(ICT教育とは教育現場で活用される情報通信技術そのものや取り組みの総称で、パソコン、タブレット、スマートフォンなど)

コロナウイルス対策の質疑からは、コロナによる影響がいつまで続くのか、経済や生活がどうなるのか不安が募ってきた。一律10万円の補助金は私もうれしかったが、本当に必要な人に補助は届いているのだろうか。生活保護受給者が昨年と比べるとかなり増えているという。そんな中で4月以降に生まれた子に対して10万円の支給という福山市の対策には、ホッとする。いつまで続くのかわからない状況だが、コロナ感染の対策とともに、経済や市民の生活など市政運営に期待する。西本さん頑張ってください!!

私が最も関心を持った議題は教育問題だ。熱中症の中でも、格差の問題でも、コロナの中でも子どもたちの置かれている現状が浮き彫りにされていた。

私が分からなかったのは「ITC教育」だ。「オンライン授業」「Wi-Fi」「カリキュラムマネジメント」「ウェブサイト」「ソーシャルメディア」…。ウーン!?!。そもそも「ITC教育」ってなんだ?後日、文科省のホームページを開いてみるが、イメージが湧かない。学校に子どもの数だけタブレットが入るとのこと? 子どもたちは家で、タブレットに向かって学習する? そういえば、来年度から使用の中学校の教科書に、四角くてパソコンにかざすと関連資料がいっぱい出てくるという優れものもあった。(QRコードという言葉は今思い出した)。

学校教育部長は答弁で「オンライン授業、困っている子どもや親の相談、家庭訪問、家庭学習が難しい子どもの自主登校など、教職員が指導に当たっている。また、市教委が指示、助言を行ったりしている。」との答弁。現場の先生たちのご苦勞が目につく。しかし、これも教職員が懸命に子どもたちの成長を見守り、人間どうしをつなごうとする「先生」としての仕事であり、誇りだ。その仕事を保障する行政であってほしい。

東京のどこかの区役所はデジタル化を進めて「人の来ない区役所」を目指しているのだそうだ。まさか文科省は「子どもたちのこない学校」を目指しているのではないだろうか…。人の顔の見える行政、子どもたちと一緒に考える教育を望むことのできない世の中になっていくのは悲しい。

菅首相は、「自助、共助、公助」をスローガンに掲げている。菅首相自身が努力して今の地位を獲得したから、国民もみんなそうすべきだと? 国政に期待はできないのか? 「地方の時代」と言われている。そうだ、地方自治こそ私たちの生活の砦だ。

5期目の活動に入った西本議員は、輝いていた。質問する姿や声は、経験と実績に裏打ちされた自信に満ちていて堂々としていた。これからも、私たちの期待を背負って活躍してほしい。

コロナ禍での子どもたちの生活、学校、社会

作文と教育

2020年8・9月合併号 No.885

日本作文の会 編集

特集

5 コロナ禍での子どもの生活、学校、社会 <編集部>

やっぱり学校っていいな!

「コロナ禍から見えてきた学校の課題」

坂田 美穂 (福岡県公立小学校教諭)

コロナ感染の恐怖は、他人事ではなく、身近なところまで迫ってきました。

本校では毎月、気になる子・課題を抱えた子について共通理解を図るための「児童理解会議」を開いていますが、この臨時休業期間中に気になるのは、やはり子どもたちのことでした。七人に一人が貧困だと言われていますが、本校でも、そんな課題を抱えた子どもがいます。「ステイホーム」ゆえに、子どものおかれた生活が心配になってきます。学校給食で食をつないでいた子ども。学校でしか学習に取り組めない子ども。「ステイホーム」が長引けば長引くほど、教育の格差がどんどん広がっていく現実があります。

大牟田市でも、市が把握している家庭には、毎日家庭に昼食を届けるという取組があり、本校の子どももその制度を利用できました。でも、水面下では把握しきれない子どもが、もつともつといはるはずはあります。

「おうちより、児相がいいな。」
「うちには、サンタさん、一回も来たことないもん。」
「先生、おなか減ったらどうしたらいいか分かる? 寝たらいいばい。おなかすいてるの、忘れるけん。」
「先生、市役所ってね、お金もらえる所ばい。でも、車はとられるとやん。」
「先生、お母さんが、『悪さしたら施設にやるよ。』って言いよったけん、施設ってこわい所って思ってた。公民館という施設って、楽しいこともしよるとね。こわくないね。」

これらの言葉は、私が担任として出会ってきた子どもたちの【言葉】です。彼らにとつての「ステイホーム」とは、どんな日常だったことでしょうか。学校再開後、担任としての仕事は、ここからではないかなと思えました。